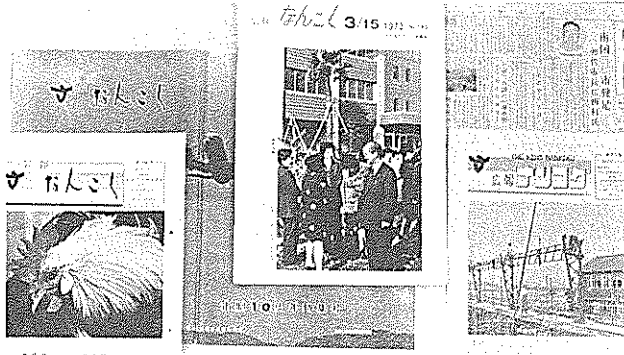


広報誌月2回(旧・15日)に

●
焦
点



市のお知らせ—— 広報誌ですべてOK

市からのお知らせは、「広報なんこく」をみれば、すべてオツケーにしよう。広報委員会は今月から「広報なんこく」を一日と十五日の月二回発行することにな

りました。

これは広報を通じて、じつくり市民と話し合い、行政のいろいろの問題を市民に説くとともに、市民の声を正しく聞き、行政に反映させ、お互いの信頼関係を深めていこう。てんでバラバラに配布される市のお知らせを市民にわかりやすいものにしよう、ということいろいろのチラシがくばられるが

すべて広報誌にとりあげ、月二回発行にしては——。という市民の声も圧倒的。そこで「種がつきたり生えた芽が悪かったらいかんぞ」と、条件つきで金堂市長の決断がおりたもの。

現在の大きさB5判、八ページ一日と十五日の二回発行。予防接種・検診など市の告知板、同和教育、市政の重要なものの解説、市議会で決められたものなど。それに市民のひろば、老人婦人・青年こどものページなど、市民に気軽に参加してもらい市民とともに親しみの深い広報誌に、と計画しています。

「広報なんこく」は、昭和三十四年十月一日、市が発足するとと

もに、旧町村の広報編集委員・市職員が集り創刊号を発行。翌三十五年二月、学識経験者・市職員で正式に広報委員会を組織。「広報はみんな読むもの、つくるもの」を編集方針に市民参加の広報活動がはじまりました。当時は日刊新聞のようなタブロイド判。そのあと、読みすての広報でなく、長く保存してもらおうと、三十九年一月、五十一号から現在の大きさのB5判に(ヘンシ——)。百号記念のカラー広報(四十四年一月)市制十周年特集号(四十四年十月)市庁舎の落成記念、市庁舎のすべて特集号(四十八年三月)など、市制の施行以来、十数年の足跡が広報紙の中に生きつづけています。

原稿募集

市民の声—行政に対する建設的な意見 800字以内▽つくし—女性のはのほのとした随想 600字以内▽ありがとう—感動をうけた善意 600字以内▽トピックス—市内の話題や行事 300字以内▽マンガ—18×26cm、墨一色▽課長対話—行政事務の質問、ハガキ▽焦点盲点親子クイズ—ハガキ▽その他、文芸作品など

■しめきり・毎月10日と25日
■おくりさき・南国市大埔・南国市役所内、広報委員会
■賞金・採用の分には、賞金または記念品を送ります。

こうした先達の努力と、たゆまない市民との対話の姿勢が、月二回発行という、県下では初めての画期的な企画へとつながってきました。創刊当時の編集方針「広報はみんな読むもの、つくるもの」にあるように、広報誌を市民と市政のかけ橋として、よりいっそう充実したものになければ——。そのためにも市民のあたたかいご協力を望んでいます。また、地区連絡員さんには、ご苦労をかけたすが、よろしく願います。